

2024年度市町村公営企業決算の概要

愛知県内市町村（名古屋市及び市町村のみで構成する一部事務組合等を含む。）の公営企業における2024年度決算の概要は、次のとおりです。

1 事業数（別表 第1表(P11)参照）

2024年度末における事業数は197事業で、2023年度末から1事業減少している。

（内訳）

地方公営企業法を適用している企業（以下「法適用企業（※1）」という。）

・・・ 160事業

地方公営企業法を適用していない企業（以下「法非適用企業（※2）」という。）

・・・ 37事業

- ・ 法適用企業は、下水道事業において4事業が法適用企業となったことにより4事業の増加となっている。法非適用企業は、宅地造成事業で1事業が事業を開始、駐車場事業で1事業及び宅地造成事業で1事業が公営企業として廃止、下水道事業において4事業が法適用企業となったことにより5事業の減少となっている。

法適用企業

- ・ 増加（法適用化）：公共下水道事業（豊山町）
農業集落排水事業（岡崎市、美浜町、幸田町）

法非適用企業

- ・ 増加（事業開始）：宅地造成事業（飛島村）
- ・ 減少（事業廃止）：駐車場事業（南知多町）、宅地造成事業（長久手市）
- ・ 減少（法適用化）：公共下水道事業（豊山町）
農業集落排水事業（岡崎市、美浜町、幸田町）

〈用語説明〉

法適用企業（※1）

法適用企業とは、地方公営企業法の規定の全部又は一部（財務規定等）を適用しており（全部適用：上水道事業、工業用水道事業等、財務規定等適用：病院事業）企業会計方式（発生主義、複式簿記）により経理処理されている企業である。

こうした企業以外の企業で、主としてその経費を当該事業の経営に伴う収入をもって充てるものについては、地方公共団体が任意に条例で定めることにより法を適用することができるものである。

法非適用企業（※2）

法非適用企業とは、地方公営企業法の規定を適用せず、普通会計と同様に官公庁会計方式（現金主義、単式簿記）により経理処理されている企業である。

2 決算規模（別表 第2表(P12)参照）

2024年度の決算規模（※3）は、法適用企業が9,208億2,300万円（対2023年度7.8%増）、法非適用企業は222億3,900万円（対2023年度7.2%減）となっており、合わせて9,430億6,100万円で、2023年度に比べ7.4%（648億7,200万円）増加している。

- ・法適用企業の決算規模が増加した主な理由は、病院事業、下水道事業において建設改良費の増加により資本的支出（※4）が増加したこと及び病院事業において職員給与費や材料費の増加により総費用が増加したことによるものである。
- ・法非適用企業の決算規模が減少した主な理由は、公共下水道事業及び農業集落排水事業の法適用化、宅地造成事業の事業廃止により事業数が減少したことによるものである。

〈用語説明〉

決算規模（※3）

（法適用企業）

決算規模＝総費用－減価償却費＋資本的支出

（法非適用企業）

決算規模＝総費用＋資本的支出＋積立金＋繰上充用金

資本的収支（資本的支出・資本的収入）（※4）

企業の将来の経営活動に備えて行う建設改良費及び建設改良にかかる企業債償還金等の支出（資本的支出）とその財源となる地方債、補助金等の収入（資本的収入）をいう。

3 法適用企業の決算状況（別表 第3表(P13)参照）

（1）黒字・赤字別の事業数（純損益）

法適用企業160事業における、純損益の状況は、

黒字事業が118事業で、全事業の 73.8%

赤字事業が42事業で、全事業の 26.2%

となっており、2023年度に比べ10事業が赤字から黒字に転じ、15事業が黒字から赤字に転じた。

- ・赤字事業の内訳は、上水道事業が47事業中8事業、病院事業が18事業中17事業、下水道事業が90事業中16事業、交通事業が3事業中1事業となっている。
- ・2023年度の赤字事業のうち、上水道事業4事業、下水道事業5事業、交通事業1事業の計10事業が、2024年度は黒字となっている。
- ・2023年度の黒字事業のうち、上水道事業7事業、病院事業3事業、下水道事業5事業の計15事業が、2024年度は赤字となっている。

(2) 収支状況

ア 収益的収支 (※5)

2024年度における純損益は2億9,000万円の黒字、経常損益は28億5,700万円の赤字となっている。経常収支比率(※6)は99.6%と2023年度(102.2%)と比べ減少している。

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	7,229億9,100万円	7,106億4,800万円	123億4,300万円	1.7%
総費用	7,227億 100万円	6,944億 500万円	282億9,600万円	4.1%
純損益	2億9,000万円	162億4,300万円	△159億5,300万円	△98.2%
経常収益	7,175億8,700万円	7,077億1,700万円	98億7,000万円	1.4%
経常費用	7,204億4,400万円	6,927億7,700万円	276億6,800万円	4.0%
経常損益	△28億5,700万円	149億4,100万円	△177億9,800万円	△119.1%
経常収支比率	99.6%	102.2%	△2.5%	—

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・2023年度に比べて経常損益及び純損益が減少した主な理由は、病院事業において、職員給与費や材料費等の増加により総費用及び経常費用が増加したことによるものである。

〈用語説明〉

収益的収支 (※5)

1 事業年度の企業の経営活動に伴い発生が予定される全ての収益とそれに対応する全ての費用をいい、企業の経営状況(損益計算)を示す。

経常収支比率 (※6)

100%以上の場合は経常黒字を、100%未満の場合は経常赤字を表すこととなる。

計算式は「経常収支比率＝経常収益÷経常費用×100(%)」

イ 資本的収支

2024年度における建設改良費等の資本的支出は3,961億1,800万円で、2023年度(3,561億9,200万円)に比べ399億2,700万円(11.2%)増加している。

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
資本的収入	2,076億5,500万円	1,728億9,100万円	347億6,400万円	20.1%
資本的支出	3,961億1,800万円	3,561億9,200万円	399億2,700万円	11.2%
差引不足額	△1,884億6,400万円	△1,837億6,200万円	△47億 100万円	△2.6%

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

※差引不足額(不足額のみ計上)は、損益勘定留保資金等の内部資金で補填している。

- ・資本的支出が増加した主な理由は、病院事業及び下水道事業において建設改良費が増加したことによるものである。

(3) 主な事業別決算（参考資料 1 (P15からP18)参照)

ア 上水道事業（47事業：簡易水道（法適用）含む）

上水道事業は、純損益で72億4,800万円の黒字、経常損益も50億3,700万円の黒字となり、黒字39事業、赤字8事業（純損益ベース）となっている。

経常収支比率は、103.6%と2023年度（105.5%）と比べ減少している。

年度 区分	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	1,480億5,400万円	1,443億9,500万円	36億5,900万円	2.5%
総費用	1,408億 600万円	1,366億1,000万円	41億9,600万円	3.1%
純損益	72億4,800万円	77億8,500万円	△5億3,700万円	△6.9%
経常収益	1,457億5,200万円	1,439億2,900万円	18億2,300万円	1.3%
経常費用	1,407億1,500万円	1,363億7,600万円	43億3,800万円	3.2%
経常損益	50億3,700万円	75億5,200万円	△25億1,500万円	△33.3%
経常収支比率	103.6%	105.5%	△2.0%	—

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・2023年度に純損益及び経常損益がともに黒字であった刈谷市、犬山市、岩倉市、あま市、南知多町は、物価高騰による委託料や修繕費等の増加により、豊根村は、他会計補助金の減少により、いずれも赤字となっている。
- ・2023年度に純損益が黒字であった一宮市は、配水場等の設備の老朽化に伴う修繕費等の増加により純損益及び経常損益ともに赤字となっている。
- ・2023年度に純損益及び経常損益がともに赤字であった名古屋市は、過誤修正に伴う特別利益の計上により純損益が黒字となっている。
- ・2023年度に純損益及び経常損益がともに赤字であった新城市及び美浜町は、料金改定の実施に伴う給水収益の増加により、あま市（簡易水道）は、他会計補助金の増加により、いずれも黒字となっている。

イ 病院事業（18事業）

病院事業は、純損益で177億6,500万円の赤字、経常損益も189億3,500万円の赤字となっている。2023年度と比較すると、赤字事業数（純損益ベース）は14事業から17事業へ3事業増加している。

経常収支比率は、93.3%と2023年度（98.1%）に比べ減少している。

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	2,667億 300万円	2,661億6,800万円	5億3,500万円	0.2%
総費用	2,844億6,800万円	2,705億8,400万円	138億8,400万円	5.1%
純損益	△177億6,500万円	△44億1,600万円	△133億4,900万円	△302.3%
経常収益	2,649億3,600万円	2,642億6,600万円	6億7,100万円	0.3%
経常費用	2,838億7,100万円	2,695億2,100万円	143億5,000万円	5.3%
経常損益	△189億3,500万円	△52億5,500万円	△136億7,900万円	△260.3%
経常収支比率	93.3%	98.1%	△4.7%	—

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・病院事業については、2023年度に比べて入院収益、外来収益は増加しているが、新型コロナウイルス感染症に関連する補助金の減少や職員給与費、材料費等の増加により、2023年度より純損失及び経常損失は拡大しており、2023年度に純損益及び経常損益が黒字であった豊橋市、岡崎市及び西知多医療厚生組合についても、2024年度はいずれも赤字となった。
- ・2023年度に純損益が黒字、経常損益が赤字であったあま市は、建設改良に伴う長期前受金により特別利益が発生したことから、2024年度も純損益は黒字、経常損益は赤字であった。
(あま市は指定管理者制度を導入しているため、入院・外来収益、材料費等の指定管理者において経理される項目は含めていない。)

ウ 下水道事業（90事業：コミュニティ・プラント含む）

下水道事業は、純損益で11億3,600万円の黒字、経常損益も5億7,600万円の黒字となり、黒字74事業、赤字16事業（純損益ベース）となっている。

経常収支比率は、100.3%と2023年度（101.2%）と比べ減少している。

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	1,913億4,000万円	1,886億6,900万円	26億7,200万円	1.4%
総費用	1,902億 400万円	1,862億7,100万円	39億3,300万円	2.1%
純損益	11億3,600万円	23億9,700万円	△12億6,100円	△52.6%
経常収益	1,901億5,800万円	1,881億 700万円	20億5,100万円	1.1%
経常費用	1,895億8,100万円	1,859億4,000万円	36億4,100万円	2.0%
経常損益	5億7,600万円	21億6,700万円	△15億9,000万円	△73.4%
経常収支比率	100.3%	101.2%	△0.9%	—

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・2023年度に純損益及び経常損益が赤字であった公共下水道2事業（あま市、東浦町）は、下水道使用料、雨水処理負担金及び他会計補助金等の収益の増加により、いずれも黒字となっている。
- ・2023年度に純損益が赤字であった公共下水道2事業（一宮市、尾張旭市）は、下水道使用料、雨水処理負担金の増加により、黒字となっている。
- ・2023年度に純損益及び経常損益が黒字であった公共下水道3事業（岡崎市、長久手市、幸田町）、農業集落排水1事業（長久手市）、漁業集落排水1事業（南知多町）は、他会計補助金の減少、処理場等の維持管理に伴う費用や減価償却費等の増加などにより、いずれも赤字となっている。

エ 交通事業（３事業）

交通事業は、純損益で96億4,200万円の黒字、経常損益も104億3,900万円の黒字となり、名古屋市（バス事業、地下鉄事業）はいずれも黒字、西尾市（渡船事業）はいずれも赤字となっている。

経常収支比率は、109.9%と2023年度（110.4%）と比べ減少している。

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	1,159億1,500万円	1,104億5,900万円	54億5,600万円	4.9%
総費用	1,062億7,400万円	1,000億4,100万円	62億3,300万円	6.2%
純損益	96億4,200万円	104億1,800万円	△7億7,700万円	△7.5%
経常収益	1,157億6,700万円	1,104億5,900万円	53億 800万円	4.8%
経常費用	1,053億2,900万円	1,000億4,100万円	52億8,800万円	5.3%
経常損益	104億3,900万円	104億1,800万円	2,000万円	0.2%
経常収支比率	109.9%	110.4%	△0.5%	—

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・2023年度に純損益及び経常損益がともに赤字であった名古屋市のバス事業は、年間輸送人員の増加等により、黒字となっている。
- ・西尾市の渡船事業は年間輸送人員の減少及び船舶建造による減価償却費の増加により、2023年度に引き続き純損益及び経常損益ともに赤字となっている。

4 法非適用企業の決算状況（別表 第4表(P14)参照）

（1）実質収支（※7）

法非適用企業は、電気事業、市場事業、と畜場事業、観光施設事業、駐車場整備事業、宅地造成事業、介護サービス事業の7区分（37事業）となっている。

法非適用企業（37事業）の実質収支は、22億2,100万円の黒字となり、2023年度に比べ4.2%（8,900万円）増加している。

実質収支では2023年度に赤字であった介護サービス事業が黒字に転じ、全37事業が黒字となっている。

- ・実質収支が増加した主な理由は、宅地造成事業において地方債償還金及び他会計長期借入金返還金が減少したことによるものである。

〈用語説明〉

実質収支（※7）

法非適用企業における、当該年度に属する収入と支出の実質的な差額を表すこととなる。

- 実質収支＝形式収支－翌年度に繰越すべき財源
- 形式収支＝収支再差引（収益的収支＋資本的収支）＋収益的支出に充てた地方債
＋収益的収支に充てた他会計借入金＋前年度からの繰越金
－積立金－前年度繰上充用金

(2) 収支状況（企業会計方式に準じて収益的収支、資本的収支に区分したもの。）

ア 収益的収支

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
総収益	128億 700万円	140億6,800万円	△12億6,100万円	△9.0%
総費用	96億2,400万円	95億4,600万円	7,800万円	0.8%
差引	31億8,300万円	45億2,200万円	△13億3,800万円	△29.6%

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

イ 資本的収支

区分 \ 年度	2024年度	2023年度	増 減	増減率
資本的収入	88億4,900万円	93億4,800万円	△4億9,900万円	△5.3%
資本的支出	119億6,200万円	136億 300万円	△16億4,200万円	△12.1%
差引	△31億1,300万円	△42億5,500万円	11億4,300万円	26.9%

※各金額について百万円未満を四捨五入しており、各欄で整合がとれない場合がある。

- ・2023年度に比べて収益的収支が減少した主な理由は、宅地造成事業において土地売却収入が減少したことによるものである。また、資本的収支が増加した主な理由は、宅地造成事業において地方債償還金及び他会計長期借入金返還金が減少したことによるものである。
- ・資本的収支の差引額に対し、収益的収支の差引額が上回っていることにより、実質収支は黒字となっている。